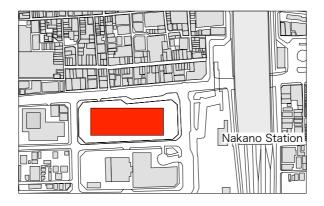
# **Another World**

### 1.はじめに

現在いるな街で問題になっていることがある、それは地域性である。街が発展するにつれてより豊かな街になるが、豊かになることとひきかえに今までの地域性が失われているように思える。その大半が大型ショッピングモールなど、どこにでもあるモノが建つようになったからである。そして今後もその傾向は止まらないと思われる。

地域性のある建物とは何か?





平林 義貴建築設計計画研究室

#### 2.敷地

私が選んだ地域は東京都中野区です。 中野という街は、小さな飲食店や商店街などが多く存在し、それが統一感なく様々な用途の建物がごちゃごちゃと混在している。そして、それが中野の魅力となり地域性となって多くの賑わい行き交っている。しかし、最近中野駅を中心に都市開発が行われ、今までになかったハイパースケールなのもが建ちはじめ、中野の街が変化しつつある。そして、それは今後も続くだろう。

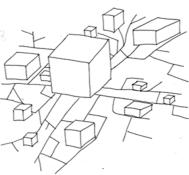
敷地は現在中野サンプラザがある敷地です。この中野サンプラザは都市開発で2018年以降に取り壊されることが決まっており、この敷地は都市開発が行われている地区と昔からある商店街地区の間にある。そこに中野の地域性のすべてを受け入れ、さらに都市開発で加わるハイパースケールな建物を合わせ持った建物をここに提案する。



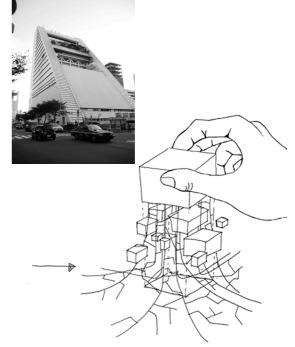
街には多くの道や建物や人で溢れている。 そしてそれらには、その街ならではの個性が にじみ出ているので、そうした街の構成要素 をボリュームを持ち上げることで周辺にある それらが吊られて持ち上がり今まで関わりの なかったモノたちが関わり合い、そこで新た な関係性と地域性が生まれ、それが街に流れ る。













街は様々な歩道、車道などの動線が木の根のように 街全体に広がり張り巡らされている。

人々を集めることにより中野ならではの都市下位文化理論が巻き起こる. 都市では、その人口の規模・密度の大きさゆえに、人びとの多様なネットワークが形成され、それを基盤として多様な下位文化的コミュニティが生み出される.

都市の「人口の規模・密度の大きさ」

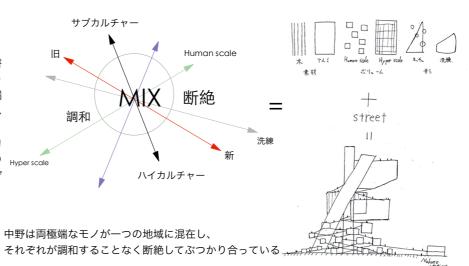
→「多様な下位文化の生成」

→ 都市の「非通念性」

## 4.デザイン

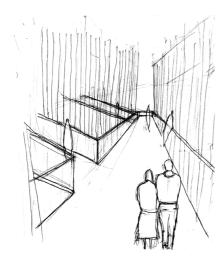
現在の中野の街を構成するモノを言葉に書き出してみる。そうすることで現れた中野の地域性をみると、中野の街には様々な両極端なものが存在し、それが混在しており、それらは調和することなく断絶している。

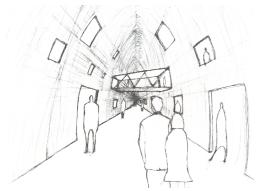
そして、出てきた言葉を自分なりに建築的 造形的に表現し、組み合わせることで中野の Hyperscale 地域性を受け入れた中野の街特有の建築をデ ザインした。



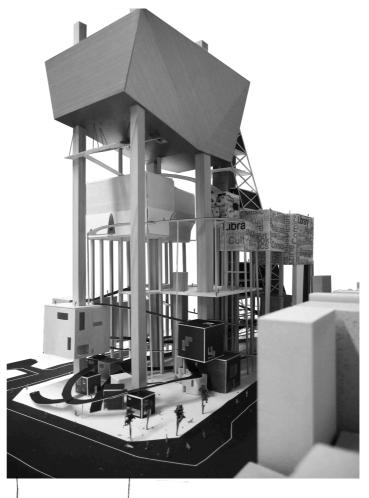
## 5.プログラム

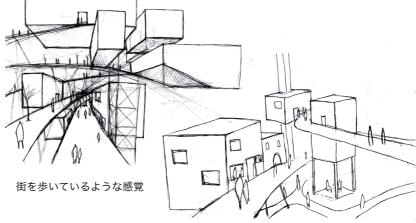
GLから地上20mくらいまではショップや市民ギャラリーや広場など中野のヒューマンスケールな街並を表し、それぞれ持ち上がったボリュームを道で繋げることにより『人が行き交う』という中野らしさを出した。そしてエントランスをはさみ公共空間(図書館・美術館・ホール)に流れ展望台へと続いていく。そしてボリュームを浮かせたことにより隙間が生まれそこで新たな場が出来、そこで人々の活動が行われ周辺に溢れ出す。





商店街のアーケードのような空間





様々な所に人が行き交う